

How Working Grandmothers Experience the Intergenerational Relationships Among Their Daughters and Grandchildren

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 邦子, KATO, Kuniko メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1205

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



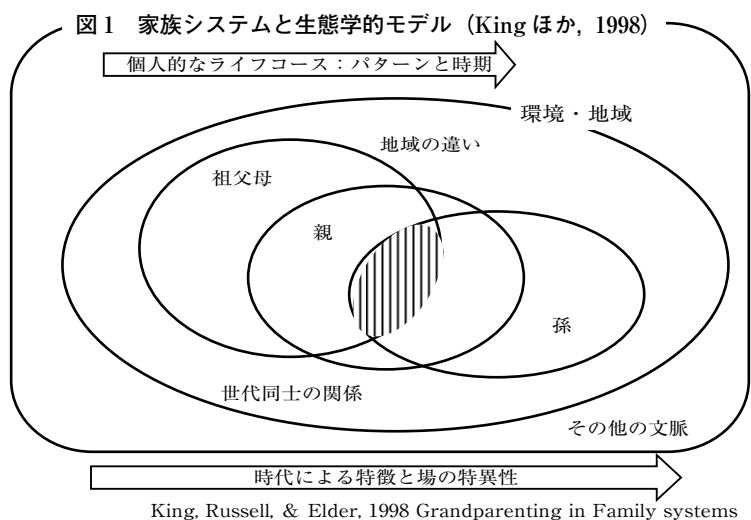
仕事をもつ祖母はどのように娘や孫との世代間関係を経験するのか

加藤 邦子

問題

少子高齢社会においては、仕事をもって働く女性の増加や子育て支援制度が充実し、さらに祖父母世代の退職年齢が延長される、等、家族やその支援をめぐる変化が大きい。King ほか (1998) の家族システムと生態学的モデルの枠組み (図1) では、社会の高齢化に伴って、祖父母世代・親世代・孫世代が同時代を生き、世代同士の関係が複雑になることが示されている (図の斜線部)。

すなわち祖父母世代がその子どもに影響を及ぼし、子どもが親となり孫世代を産んで、親として孫に影響を与えるが、同時に祖父母世代も孫世代に影響を及ぼしている。しかしながら、この図を平面的に捉えるだけでなく、立体的に考えてみると、祖父母世代は親世代を経由せずに孫世代に影響を及ぼすこと、さらに孫世代が親世代を経由せず、祖父母との世代間関係を形成する可能性も考えられる。



Minuchin (1985) は、「バウンダリー」という概念を家族の境界として提起し、異世代はバウンダリーを維持するとしたが、その一方で家族成員の特性や時代の変化によって家族の境界や相互作用のルールは変わっていくと述べている。上野 (2009) は『あなたにとって家族とはどの人を指しますか?』と問うことで、家族成員それぞれの「ファミリーアイデンティティ」を明らかにし、家族の捉え方が個人によって異なるという現状を浮き彫りにしている。すなわち、少子高齢社会において、子どものような『依存的な他者』を抱えていくには、一つ屋根の下に暮らす家族だけではなく、『ケアの絆』という視点から、家族以外の援助者の存在についても考えていく必要があろう。たとえば、祖父母世代－親世代－孫世代の世代間関係について、ケアの絆として捉え直すことには現代的な意義があると考えられる。

祖父母世代の中には、仕事をもちながら、娘・息子の子育てや孫の子育ちを援助する人が増えていると推測される。仕事をもつ祖父母にとって、孫育てはどのように体験されているのだろうか、孫育て及び自分の子どもが親になる過程を援助する際の体験から、孫や息子・娘との対人関係やその心理について捉えることには意義があると考えられる。

本研究の目的

これまで祖父母であること (grandparenthood) に関する研究は、三世代同居や幼少期にある孫と祖父母という文脈で取り上げられることが多かった。安藤 (2017) は、少子高齢社会の到来とともに、「祖父母＝高齢者」というステレオタイプ的な祖父母のイメージが崩れつつある、と述べている。特に祖母は孫の出産から、娘、息子、孫と新たな関係を築くことを経て、孫が成人期に至るまで重要な支援者となっている。子どもにとっての「祖父母」は、親が妊娠期以降に頼る子育て・子育て支援の担い手であり、『依存的な他者』をケアする機会が増えていると考えられる。

労働政策研究所 (2012) による子どものいる世帯への祖父母からの援助の調査では、父子家庭、母子家庭のみならず、両親のそろっている家族においても、祖父母から子どもの世話援助を受ける頻度が月2回以上と答えた世帯が30%を超えていることを明らかにし、祖父母から家事援助を月2回以上受けているという世帯も、父子家庭で43%、母子家庭で30%、両親そろった家庭で18%と高い割合を占めている。

そこで本研究では、仕事を抱え、さらに、孫のケアにも関与する祖父母世代が、他世代との関係を築く際に、どのような体験をしているのかについて語りを通し明らかにすることを目的とする。

祖母の子育て・子育てへの援助について、加藤 (2014) は、地域子育て支援施設を利用してい

る未就学児をもつ母親を対象とした調査を実施し、最も子育てを手助けしてくれる配偶者以外の人について尋ねたところ、「祖母」（孫からみた続き柄）を挙げた人が多く、その平均年齢は61歳で年齢の幅がみられている。また日本老年学会・日本老年医学会（2017）のHPによれば、従来高齢者と見なされてきた65歳以上、特に65～74歳の前期高齢者においては心身の健康が保たれ、活発な社会活動が可能な人が大多数を占めると報告されており、高齢者を75歳以上とするとの提案がなされている。祖父母が娘・息子世帯の近くに住んでいる場合、頻繁に子育て・子育てを援助し、娘・息子・孫から頼られる存在として機能するものと考えられる。

Erikson, et al., (1986=1990) は、老年期には、自分が親であった時が「一番幸せだった…」とか、「あの時……しなければよかった」などの後悔が語られるという例を挙げており、このような過去の子育ての振り返りに対しては、子ども世代や孫世代との関係の中で折り合いをつけようとする意識が生じる可能性もあろう。したがって、高齢者の語りの中には、自らの過去が反映されることが予想される。

方 法

1. 研究の枠組み

Erikson et al. (1986=1990) は、『老年期』の中で、『世代継承性』（Generativity；以下ジェネラティビティとする）の概念について、「次世代を確立させ導くことへの関心やその行動」と定義している。この定義は、かなり幅広い年代や関心・行動内容を含むものと考えられる。一方でKotre (1984) は、Eriksonによるジェネラティビティ概念に対して、「ジェネラティビティとは自己形成に関わる概念で、自己の延長である人生や仕事の内容を投入したいという動機」と再定義している。さらに深瀬・岡本 (2010) は、とくに老年期のジェネラティビティの様相に注目して、子育ての第一養育者の立場からは一歩引いた立場から、〈一歩引いた立場に徹する〉、〈次世代の平安を願い、案じる〉、といった「残す」「守る」「案じる」という概念を明確化し、老年期の人々は、そのような立場に満足感をもっていと述べている。

本研究の調査協力者は、未就学児の孫に関わってはいるが、娘・息子と非同居で孫育てに関わる祖母で、有業でもあり、実態として側面からの子育て援助であることが推察される。したがって、Kotre (1984) や深瀬・岡本 (2010) が述べているようなジェネラティビティの概念で説明できると考えられる。本研究ではこのような視点から、祖母たちへのインタビューを実施し、祖母と孫とのかかわり、娘（息子）とのかかわり、自らの仕事と子育てとの兼ね合いに関する語りの内容について、祖母の人生がどのように投入されているのかについて分析する。

表1 インタビュー調査の協力者と孫の状況

協力者			孫1			孫2			孫3			孫4			
仮名	年齢	就業 形態	人数	年齢	性別	かかわる 頻度	年齢	性別	かかわる 頻度	年齢	性別	かかわる 頻度	年齢	性別	かかわる 頻度
Aさん	67歳	常勤	2人	4歳1ヶ月	女兒	週1回	9ヶ月	男児	年3回						
Bさん	65歳	パート	2人	4歳3ヶ月	女兒	週1回	11ヶ月	男児	週1回						
Cさん	73歳	非常勤	2人	4歳8ヶ月	男児	月1回	4歳4ヶ月	男児	週1-2回						
Dさん	58歳	常勤	1人	5ヶ月	男児	月3回									
Eさん	60歳	常勤	1人	2歳4ヶ月	男児	週1回									
Fさん	59歳	パート	4人	6歳0ヶ月	男児	月2-3回	3歳11ヶ月	女兒	月2-3回	10ヶ月	女兒	月1-2回	7ヶ月	男児	月2-3回

2. 協力者

娘か息子世帯は独立しているが、2時間以内の所に住み、現在なんらかの仕事をもっている女性で、孫が生まれて現在孫育てに関わっているという方について、研究者の周囲の同世代の状況を尋ね、該当者に「研究協力をお願い」を提示し、インタビュー調査の目的について説明し協力を求め、あるいは知り合いを紹介してもらうことで協力者を募った。

協力者は未就学の孫とは別世帯で、孫育てにかかわる有業の祖母（年齢58歳～73歳）6名。全て母方祖母（孫からみた続き柄）で、Aさんの9ヶ月男児の孫、Fさんの10ヶ月の女兒の孫については、息子の子どもで、その他（10人の孫）はすべて協力者の娘の子どもであった。

*表1に仮名で掲載した。

3. インタビューの時期：平成29年11月～平成30年2月

4. 調査方法

インタビューガイド⁽¹⁾を作成して、それに基づき聴き取り調査を実施することとした。研究目的を説明し同意が得られた後、協力者と待ち合わせをし、インタビューをさせていただく内容について「インタビュー項目」を提示して説明した。次に所定の場所へ移動し、「本研究に関するお約束」の文書を示しつつ、倫理面を含め調査協力に関する6項目を説明した。研究への協力が得られた場合は、「同意書」に署名してもらった。尚ICレコーダーへの録音についても、全協力者から同意が得られたため、祖母6名について、各々1時間ずつインタビューガイドに沿った質問に対する語りをICレコーダーに記録した。インタビュー後、音声記録をMP3ファイルに落とし、テープ起こし業者に逐語録作成を依頼した。文書を確認後、音声記録はすべて破棄し

(1) 【内容】1. お孫さんとかかわっておられる時を振り返ってみて、お孫さんが楽しそうにしている時間帯や活動について教えてください。2. お孫さんとかかわる一日を振り返ってみて、あなたが対応を工夫されている場面について教えてください。3. 「ご息子が子育てをしている具体的な場面について」
1) どのようにお孫さんに、かかわることが多いと感じられますか。2) 自分の子育てと異なる点はどのような点ですか。3) あなたがご息子に親の振る舞いとして教えたいこと・伝えたいことがあれば、どんなことでしょうか。

た。アルファベットを割り振って分析し、匿名性を担保している。

5. 分析方法

協力者の逐語録を分析対象として、特徴的な経験の違いごとに具体的なエピソードについてコーディング作業を行った。自宅あるいは子（娘・息子）の家で孫に関わり、子育てを援助するというまとまりをもつエピソードにラベルを付与し、カテゴリ分けを行うことにより分析した。

結 果

1. 孫の子育ち援助の実態

祖母は、実際に孫と娘、息子に対するどのような子育ち・子育て支援を行っているのかについて、自宅あるいは娘（息子）の家において、行っている援助の内容に関する語りからエピソードを切り取って整理した。

何もしないとつまんなさそうなので、遊びに、なんて言うんでしょうね、飽きないようにしています。
(Aさん/67歳・常勤)

お姉ちゃん（4歳3ヶ月）は幼稚園の延長保育で、私は下の子（11ヶ月）は12時ぐらいからみてるんですけど、お姉ちゃんが4時ぐらい、5時ぐらいに帰ってきて、それから一緒に（二人を）みる。……
(Bさん/65歳・パート勤務)

女の子と男の子と関係なく、何か動作が荒くて物をほんと投げたりとかじゃなくてね、自分が生理的に嫌なわけ。だから物を投げたりとかそういう動作が、荒い動作があるとそのときには注意するけれど、それでそのときには、そんな投げたりしないでとか言う。（すると4歳3ヶ月の孫は）何か恥ずかしそうな顔する。……
(Bさん/65歳・パート勤務)

長女も次女も、（孫が）4歳になる幼稚園に行くまでは（私は）週に1回ぐらいどちらかのおうちへ行ったり来たりしてたんですけど、次女のほうはちょっと教育に関して、子育てに心配してるらしくて、週に1回か、多いときは2回ぐらい（私が）行って、幼稚園から帰ってからですから、3時ごろから夜寝てしまうまで（娘と）一緒に付き合ってます。娘は私に丸投げしていて、東京で預かるときはほとんど私が連れてきて連れて帰ると感じ。……
(Cさん/73歳・非常勤)

私が行くと、煮物作ったりとか、野菜ゆでて置いたりとか、そういうのできるじゃないですか。女の人って、適当に、その日のアレンジで。そういうことは、なかなかやっぱ男の人ではできないから、そういうのを私が受け持ってた感じ。娘も喜んでくれるし、婿さんも、いや、ご飯が半分できると、ほんとに助かるんですよって。あと、ご飯炊いて、お肉でも焼けばそれで済むからって言って……
(Dさん/58歳・常勤)

私がみるのはいつも夜だけなので、夜の時間で、(孫が保育園から)帰ってきて寝るまで(世話をする)。お掃除は、今日してから出かけてきたんですけど、私は。娘はもう早く出ちゃって、保育園に送っていったので、私は、家事をしてから(娘の家から)出かけてきたんですね。なので、洗濯物干して、洗い物して、掃除機かけて。(娘や婿の)代わりにご飯作ったり、お孫ちゃん(2歳4ヶ月)に食べさせたり(して手伝う)。食べきれないところだけ、食べさせて。…娘がお風呂に入るのが今、つらい状態なので、つわりで、お風呂に一緒に入ってたので、お風呂のなかで歌ってたら、もう1回とか言っていました。…… (Eさん/60歳・常勤)

保育園に預けた後だったかな、1人で預かるのは。ただ娘も働き出すと、迎えに行けない。だから迎えに行ってしまうことは結構ありました。今日いる? って言って。今日はいるよって言うと、迎えに行ってくれる? とか。私もパートは5時で終わって、もうぎりぎり6時に間に合う時間なので、自分のうちに連れて帰って、それがうちのほうが駅から近いので。で、迎えに来て、1人だったら夕飯を食べて帰ったりとかもしてたりとか。…… (Fさん/59歳・パート勤務)

援助の実態に関するエピソードから、Aさんは、世話よりも「孫と一緒に遊ぶこと」に重点を置いた援助を行っている。Bさんは、娘が「仕事に行っている間に孫の世話をする」援助や、Cさんのように長女と次女の4歳の孫が幼稚園から帰ってくる3時頃から、夜寝入るところまで「娘がいる状態で孫の世話を引き受けている」というエピソードが語られた。Bさんは孫の行動・しぐさに対して、自分の考えを孫に直接示して、伝えると述べており、娘の代替として世話を担当する際には、孫に対して「自分が気になっている点に注意する」としており、Bさんの場合、Kotre(1984)が提起するような自己の投入がなされていると考えられる。またDさんは、娘の配偶者が出張で留守にする場合に、娘が育休を取って家にはいるが、子どもの世話に専念できるように、家事の中で「娘夫婦の食事を作る」という援助をしている。娘、配偶者の現実を捉えた上で、Dさんができること、夫婦の役に立てることを考えて工夫していた。Eさんは娘が次子を妊娠しつわりがひどい状況にあるため、孫が保育園から帰ってきて眠るまでの間、娘に代わって世話をしている。また娘と孫が出かけた後、洗濯、掃除などの「家事をする」と述べている。Fさんは、娘の仕事の都合により、突然保育園のお迎えを要請されることがあり、18時に間に合うように3人の子どもを迎えに行き、自宅に連れ帰り、娘が迎えに来る—というように、「要請があった際に保育園のお迎え以降の孫の世話」を引き受けていた。

このように娘・息子、孫のきょうだい関係や状況によって、提供する援助が異なっており、娘・息子に歓迎される援助やこうしてほしいという要請も出てくる可能性があり、いずれも深瀬・岡本(2010)が明確化している、〈一歩引いた立場に徹する〉援助とみなすことができる。

2. 孫と関わる具体的な場面に関する語り

(1) 孫が楽しくする場面

自宅あるいは娘(息子)の家において、祖母が孫の子育ちを援助する場面の語りのうち、具体

的に祖母が関わって孫が楽しそうにする場面を取り上げて、孫世代との関係に関するエピソードを収集した。

一緒に歌を歌ったり、童歌をしたり、遊んでるとき。縄跳びしたり、フラフープしたり、あとはあの子とは、おままごとしたり、なときですね、即興の歌を歌ったり、のとき（4歳1ヶ月の孫）が楽しそうです。（Aさん/67歳・常勤）

スマホで、何か、ちっちゃい子が好きなような音楽、歌とかかけながら、こうやって踊ってよかなと思って、それをやったらすごい、（5ヶ月の孫は）ケラケラして喜んでました。その音楽でこうやって一緒に歌うたったりとか、私の膝に乗って……（Dさん/58歳・常勤）

4歳になってこれはこういうことが起こったんだよとか。…幼稚園での出来事とか、お友達との出来事とか、（4歳3ヶ月の孫が）話（を祖母にする）の中心が。…私に一番話しかけてくれたのは、たぶん私がとっても反応がよかったからだと思うのね。……（Bさん/65歳・パート勤務）

なにしろ普段しないような乱暴なことを（4歳4ヶ月の孫が）するらしいんですね。だからおもちゃを投げたり。私は普段笑ってるので、母親だとすごく叱ったりするらしいんですけど、私はその乱暴そのものがおかしいので大笑いしちゃうじゃないですか、それがとてもうれしいみたいで。おばあちゃんが来たときは、特別みたいな。ばあばとの内緒ね、みたいな。で、お母さんがいるにも関わらず、母さんに内緒にしとこうね、みたいなことを言いながらやるのが、ちょっといたずら…面白い（ようです）。（Cさん/73歳・非常勤）

私が見るのがいつも夜だけなので、夜の時間で、帰ってきて寝るまで、楽しみにしてるかどうかはわからないんですけど、歌を歌ってあげたりとかすると（2歳4ヶ月の孫は）楽しそう。お風呂と一緒に入って、お風呂のなかで歌ってたら、（2歳4ヶ月の孫に）もう1回とか言われました。（Dさん/58歳・常勤）

私がiPadを持ってるんですけど、（6歳の孫は）見るのが一番好きで。でも家にはないんです。うちしかないんです。だからおばあちゃんちに来ると、iPadでユーチューブとかそういうのを見るんですけど、でも（娘は反対するから）あんまりよくないんだけど、それが唯一の楽しみなので、それをね、ちょっと与えるとすごいうれしそうにしています。（Fさん/59歳・パート勤務）

孫との関係のうち、孫の楽しい状態を保つための工夫が語られた。〈次世代の平安を願い、案じる〉（深瀬・岡本、2010）という思いが反映されており、このように関わると、孫が楽しめた…というように、孫に合わせた援助について語られることがわかった。その一方で、娘は自分のように孫と純粋に遊ばない（Aさん/67歳・常勤）、スマホを見せて踊ると孫が楽しそうにする（Dさん）、娘は反対するがiPadを見せたり与えると孫が楽しそうにする（Fさん）、孫がよく私に話しかけるのは私の反応がよいから（Bさん）、おばあちゃんが（自宅に）来た時は特別、ママには内緒みたいな（Cさん）、…などの語りに見られるように、孫にとって祖母は、『ママとは違う』、『特別な』、『ママには内緒』の存在であり、第一養育者から一歩引きながらも、孫たちが楽しいと感じる特別な存在となることに重点を置いていた。

(2) 孫に手がかかる場面

自宅あるいは娘（息子）の家において、祖母が孫と関わって孫が不快感情を示す等対応を工夫しなくてはならない場面に関するエピソードを収集した。

何もしないと（4歳1ヶ月の孫は）つまんなさそうなので、遊びに、なんて言うんでしょうね、飽きないようにはしています。…孫が来たときにやらせようと思って用意はしています。…預かるときはお兄ちゃんと一緒だったりするので、お兄ちゃんとすぐ喧嘩するんです。取りっこで。なのでそのときに助けを求めて、泣いて、訴えます。…そのときには（6歳の）お兄ちゃんに、（4歳1ヶ月の）妹が嫌がってるでしょって。ちゃんと口で言っって、じゃあ次は貸してねって言えばいいでしょって（注意します）。

① Aさん /67歳・常勤

（私に向かって）時々「ママがいいな」って（4歳3ヶ月の孫が）言う。おばあちゃんといえどもずっとかかわってくれないし、どうしても我慢しなきゃいけない場面がふえてきてるからだと思う…。（11ヶ月の孫はママが）いないと泣く。私が毎週もう通っているのにもかかわらずちっともなれなくて、私の顔を、ほら、ママが仕事に出かけて私と2人になるといつも泣いてた。ママが一番頼りになる人っていう、ほかの人は、甘えていいのかどうか心配。下の子（11ヶ月の孫）は、あやしてほかに気分を変えさせようと思っっても、やっぱりなかなか気分を変えてくれない。自分はママがいないから悲しいんだって、そこへまた戻っちゃうの。私、小さいときに自分の娘がね、幼稚園に行っって、『時々ママに会いたいなって思うの』って言っってたのをよく覚えてるのね。だから今がつまらないんじゃないけれども、時々ママを思い出してしまっって会いたくなる、そういう気持ちなのかなと思う。（だから孫がそう言っった時には）『やっぱりママに会いたいなね、もうちょっと頑張ろうね』で終わらせてしまう。それできげんが悪くなっったりとか、泣き出したりとかそういうことも全然ない。……

② Bさん /65歳・パート勤務

次女の（4歳3ヶ月の孫）のほうは今ちょっと困ってるのは、ボンとか叩いたりするんですね、ちょっと自分ってものが出てきて。おもちゃの取り合いっこ、たぶん幼稚園なんかもするんじゃないかと思っますけど、…ボンとかおばあちゃんを叩くんです。どのぐらい痛いもんだろうか、だから私が（4歳3ヶ月の孫に）ちょっとやっってみせてね、〇〇君、おばあちゃんは強いから大丈夫だけど、たぶん〇〇君みたいなちっちゃい、もっとちいちゃい人にやったらたぶん痛いよって言っって（ちなみに机叩いて）、うん、ここ叩いてごらんっって、で、お人形さん叩いても、お人形さんふわっとしてるけど机叩いてごらんっって言っって、痛いでしょって。たぶんこのぐらい痛いんだよって言っってね、おばあちゃんは強いけれども、ちっちゃいお友達とか同じぐらいの人にやると、たぶん乱暴な〇〇君っって言われちゃうよって言っってね、一生懸命教えた。そしたらやめたんですけど。だから、丁寧に教えてくと1個ずつやっってはやめていく。だから、それはどうして駄目なのかが分からないみたいで。……

③ Cさん /73歳・非常勤

機嫌悪くなるのは、基本的に（5ヶ月の孫が）お腹が空いたとき、ママいないと、今ちょっと、危機的状态になっっちゃう。立ち上がっって抱っこして、トントンしたりとか、お母さんの顔見せに行ったりとか。お母さんの顔見せちゃったら、もう駄目ですよ。だからいろいろ、さっきの（スマホの）歌も、見せてちょっと気を引こうとか、したりするんだけど、究極になっちゃうと、もうちょっと機嫌の取りようがない。眠くなっったときと、あとは娘に……

④ Dさん /58歳・常勤

納得しないと（孫は）よく怒ったりします。娘の旦那さんが、食べやすいようにと思っって切ったりすると、切らないでほしかったっっていうようなことを、別にそういうふうにはっきりは言わないけど、切っってもいい？っって確認してからじゃないと切っちゃだめ……

⑤ Eさん /60歳・常勤

6歳の子(孫)はね、自分がこうしたいって思うことができないとき。たとえばiPadがやりたいのに、たとえば母親がだめだと言って取り上げたとか。おもちゃが欲しいのに買ってもらえないとか、たとえば児童館に行きたいのに行けなかったとか、そういうときにもう本当にかんしゃく持ちのように泣いたりとか、寝そべて泣いちゃうとかそういうことがあります。…やっぱり私1人のときでも、泣いたり叫んだり(する)。(⑥Fさん/59歳・パート勤務)

何かものをたとえば(4人の孫が)こぼした、(としたら)もう自分の子だったら、何やってんのってすごい何か怒った記憶があるのに、「何かけがしなかった?」とか、「やけどしなかった?」とかそんな感じで、もうどこが汚れようが全然平気。洗濯物がふえようが全然平気。うん。何か欲しいものを、(6歳の孫が)欲しい、欲しいって言って、もしだだをこねてるんだったら(私は)買ってあげちゃったりとか、ちょっとね、甘いですね。…(⑦Fさん/59歳・パート勤務)

お兄ちゃん(6歳)が、(3歳11ヶ月の孫の)言うことをきいてくれないっていうか、たとえば、おもちゃを貸してほしいのに貸してもらえなかったとか、そういうときにけんかじゃないけれども、機嫌が悪くなることが多いです。ばあばって言ってきて。そういうときに(私は)一番困って、お兄ちゃんのお気持ちがあるので、お兄ちゃん貸してあげなって言っても、もうだめだし、うん。そういうときは、もう(3歳11ヶ月の孫を)泣かせときます。…お母さん(娘)だったら、もう多分上の子を叱りつけて、…。(⑧Fさん/59歳・パート勤務)

①から⑧までいずれも孫が不快感情を表出して、祖母として対応せざるを得ないエピソードを挙げたが、ママがいなくて寂しくなるというBさんの語り②にあるように、不快感情を抱える孫の気持ちを、娘と子どもとの関係がしっかりできていて、ママが一番頼りになる存在だからこそその反応であると解釈する語りがみられた。すなわち、『一步引いたところで対応する祖母の姿』と解釈することができよう。その一方で自らの子育てを思い出し、Bさんはかつて娘が幼稚園児だったころのエピソードを挙げ、孫の寂しさと重ね合わせて解釈する語りもみられた。祖母—娘—孫という複数の関係性の中で、過去—現在のエピソードをつなげることにより、孫の気持ちを捉えようとする祖母ならではの思いが語られている。自己や人生を投入したいという動機を指すKotre(1984)のジェネラティビティの現れと説明できる。

3. 自分の子育てと娘・息子の子育ての違い

祖母が娘・息子の子育てと自分の子育てとの違いをどのように感じているかを尋ねた。

時代に流されないで、なんかママ友達に惑わされないで自分のやりたいようにやればいいのにな。(孫が英語を始めたことに対して)こんにちはってご挨拶できない子になんでハローって教える必要があるのって。ほんとにその年齢に相応しいこと自体が、この子はわかってないのかなと思って、つい言っちゃいました。娘婿は答えを言っちゃってるんですよね、その喋ってるの聞くと。え、これどうして?って問いかければいいのになって、その子に考えさせる、答えさせるようにすればいいのに、先に答えちゃって、…受け身だけの子になっちゃうので、なんかそのへんのところが凄く2人の夫婦のやり取りとかを見てて、もうちょっと待って、その子に考えさせる、そうしないとほんとに力がつかないんじゃないの(と思う)。…違うところは、なんか、うちの主人は喜んでやってたんですけど、両方とも喜んでやってるようには見えませんが、でもほんとはどうかなって、娘の夫にはときどき感じますね。と

きどき、ほんとは無理してるんじゃないって、思うときがときどきありますね。……

(Aさん /67歳・常勤)

アニメとか漫画が好きになって、私はあまり自分の子どもにほとんど見せなかったのが、どうしてもそういう否定的になってしまうんだけど、帰ってきてとても、幼稚園とかって疲れて帰ってきてたりすると、テレビを見始めたり、iPadでアニメ見れるでしょう。そうするとやっぱりそれ、きりなく見てる。

(Bさん /65歳・パート勤務)

娘を見てると、幼稚園に行くときの(4歳児の)着がえも、着がえてねって指示をして、それが30分かかってても平気で待ってられる。ぎりぎりまで。親の姿勢としては、何でも1人でできるようにということだと思う。たとえば、着がえとかも全部自分でできるように、もう訓練するわけね、ボタンかけとか。やっぱりそこまでの努力はとてするんだけど、そうした後は自分でさせるようにしてる、手を出さない(で)。(でも)私はやっぱり時間を言ったらば、ぱっと着がえる。着がえてくれないと嫌だなんていうのはあります。私は、ちょっと手を出しても時間内に終わらせちゃったほうが自分も楽じゃないかと思うし、いずれできるようになるんだから、そんなに今完璧じゃなくてもいいんじゃないかって(私は子育てをしていた)。

(Bさん /65歳・パート勤務)

娘は(孫の機嫌が悪くてぐずる時)そういうときに、ついやってしまうのは、気分を変えるんじゃなくて理詰めで、あの人の性質なんだけど、いったい何が気に入らないのとか聞いちゃう。でもそれは、やっぱり4歳の子に答えられるような話じゃない。

(Bさん /65歳・パート勤務)

(長女の場合は、周りに人がたくさんいて、それが)プラスの親族、私の場合はマイナスの要因の親族。(私は昔、)いつも気にして、周りからどう言われるかってビクビクして子育てした(ところが違う)…とてもいい環境だなあとと思うんですね。皆、成功した子育てをした人たちが、いい情報をいっぱいくれるみたいで、だから私も放っておいてもいいなって思える。それはかしこい情報をいっぱいもらってるなっていう感じ。(次女の場合は)孤立している分、大変な部分はあるけど、マイナスのうるさく言う人はいなくて(いいのでは、と思う)。

(Cさん /73歳・非常勤)

(私が孫に)『山のオオカミさんお迎えに来るかもしれないからちょっと見てみる?』って言ったら、長女が『それだ』って言って、『私もやられた』って。『おばあちゃんはね、山へ捨てる人なんだよ』って言う。『それは今後とも使わせもらう』って言うから、『止めなさい』と。

(Cさん)

周りを巻き込んで子育てするのは、わりと私、得意かもわかんないです。私は(娘とは違って)逆に、私の親も、旦那の親も遠いので、そういう「親の支援」っていうのは、ほぼなかった。産後にちょっと手伝いに来てくれたりとかはあったんですけど、残念ながら、子育て中に、しょっちゅう、様子見に来てくれたりとか。でも、距離的なものもありますからね。それはちょっと大きく違うなって思う。娘の話の聞いてると、近場に、そういう子育て友達がいるっていう感じには見えない。…あなた恵まれてんじゃないって、言いたくなる…。

(Dさん /58歳・常勤)

子どもを介して知り合ったんじゃないかって、それまでの人付き合いのなかで、同じような境遇になった友達と、結構仲良くしてるみたい。それから、ネットだとか、それから、パソコンを使ったりとかいうのは、うちの娘がそもそも、そういうIT系の企業に勤めてるんですよ。スマホはあるし、パソコンもあるし。旦那さんも結構、わりと得意なほう。夫婦ともに、こういうものを賢く使おうって。ネット環境(の昔との違い)っていうのがすごい大きい。

(Dさん /58歳・常勤)

娘は今、会社と保育園でいっぱいじゃないですか。私は、子どもを幼稚園に入れていたし、近所の人たちとの関わりがすごくあったんですね。コーラスもあったし、人形劇もあったし、あと、幼稚

園のPTA活動だとか、いろんなところで、いろんな人と話す機会がたくさんあって。…なのでやっぱり、視野が違うかな。……

(Eさん/60歳・常勤)

赤ちゃん泣くのが仕事だからって言っても、ちょっとでも泣くと、だって気になるでしょって言って…(孫が2、3カ月で)寝返りもうたないときに、ちょっとでも泣くとすぐ飛んで行くんですね。もう少し泣かせてもいいんじゃないかな。……

(Eさん/60歳・常勤)

(自分自身の子育ての時とは)全然違うと思います。全然性格が違うから、似てると思うことはほとんどないんです。私の時代だったら、両方共フルタイムで働いてても、家事は女の人、っていう考えがあった。(でも今は)本当に、フィフティフィフティでやってるんだ。昔は、うち、主人は本当に仕事に忙しくて、12時前に帰ってくることはほとんどなかったの、子どもがもう、この人誰?っていうような感じだった。土日もないことが多かった…毎日帰っては来るんですけど、子どもが起きてる時間に帰れないので。朝は子どもが寝ているあいだに出勤しなきゃならない状況で。でも孫を見てると、パパが帰ってくるのを楽しみにしてる。娘の配偶者が育児・家事を元々やる人だったのか、時代なのか。……

(Eさん/60歳・常勤)

違うのは、娘は何かあるとすぐに、携帯で調べるんですね。調べると、その知識のある人が回答してくれるときもあるかもしれないけど、不安になる材料のことが書いてあることもたくさんあるんですね。私は調べないので、心配なら病院に行けばいいと思っている。

(Eさん/60歳・常勤)

土日のたんびに親子で出かけたりとか、平日は保育園に行ってるので、夜だけなんですけど、休みのときには児童館に連れていったりとか、そうやって子どもとの触れ合いを多分大事にしているように見えるんですね。私は、自分でそういうことをしなかったの。よくやってるなとは思いますが。それは身内びいきになっちゃうんでしょうけど。……

(Fさん/59歳・パート勤務)

(娘が)年が近い子を3人育てるっていうのが、もう私とは全く違うということと、やっぱり環境。世の中の環境が子育てに向いている。私たちは向いてなかった。娘は向いている。あと、やっぱり周りの人が協力的。もちろん私たちも含めてなんですけど、それは私と違いますね、全然。私はだから近所に知り合いがよく見て、お二階の奥さんがよく見てくれたっていうのと、保育園の先生は確かに協力的だったけれども、身内には本当にそういう人がいなくて。親族にはそういう人がいなくて。でもそのときはもうそれで乗り越えちゃったから、今振り返れば、娘のほうがやっぱりおじいちゃん、おばあちゃんたちも4人いるのでねとか、みんなに育てられてるっていう感じは私のときは違うかなっていう気はしますね。育児も家事もやります、婚が。これが全く違います。ほとんどそこでクリアできちゃえば、私には来ません。…

(Fさん/59歳・パート勤務)

祖母たちは、孫育てに関わりながら、娘や息子、その配偶者など子ども世代に対して、自分との違いを感じながらも、自分の思いや次世代を案じる思いも述べている。気づいたことをすぐに言いあえる関係を娘との間に築いている。その一方で自分の夫は楽しく育児に参加していたが、娘の婚は無理して協力しているように感じてしまう——と現代の父親の育児・家事への関わり方について夫との違いに着目した語りもあった。Bさんは、孫が幼稚園から帰ってきて何のためらいもなくずっとアニメや漫画を見ていること、また娘の子育てを褒めながらも、あんなに子どもに合わせていいのかな——という語りに見られるように、娘の子育てを批判する気持ちもある。またEさんのように、「何かあるとすぐに、携帯で情報収集しようとする点」は役に立つか

もしれないが、ICTによる情報収集には「不安材料がいっぱい書いてあって、よけい不安になっちゃう。」と情報が多すぎることを危惧し、「私はむしろ、調べないので、どうしても心配なら病院に行けばいいと思っている」——というように、情報に振り回されることを案じている。

Cさんは、親族との関係が長女と次女と自分とでは全く異なっている、と語っており、娘の子育てを自分と比べ、苦勞した自分の子育てのあり方を引き継がないように、長女と次女を援助していると述べている。またDさんは、自分の親や夫の親は遠方で、きょうだいも弟しかおらず、親族の援助がほとんどなかったと述べ、自分の子育てを振り返り、娘の子育てには援助してあげたいという思いを抱いていることが窺えた。

4. 仕事における自己と子育て・子育て支援を担う自己

祖母たちは娘の子育て援助と孫育てを、自らの仕事とどのように折り合いをつけているのだろうか。祖母の自己について取り上げる。

私もパートは5時で終わって、もうぎりぎり6時に間に合う時間なので、仕事のときも、じゃあ（孫の通う保育園に）今すぐに迎えに行くねとか。……（Fさん/59歳・パート勤務）

パパ（娘の配偶者）が出張の日は、何日と何日と何日と何日みたいな感じで連絡を送ってきて、「来れない？」っていう、「できれば来てほしい」っていうSOSを送ってきたんですけど、でも、私、営業の仕事もやってますけど、ピアノの講師もやってますよね。生徒さんの発表会っていうのが毎年あるんですけど、その前の週だったんですよ。最後のレッスンを休むことはできないと。だから、この週は申し訳ないけど、手伝ってあげたいけど行けない。昼間だったらなんとかやりくりして行けるけど、夜のほうのピアノのレッスンはどうしても休めないからっていうふうに断ったら、（娘が）すごく落ち込んでたんですよ。…でも、世のなかにはね、お父さんにもお母さんにも助けてもらえない人もたくさんいるし、親が北海道だとか九州だとか沖縄だとか、いろんな遠いところにいる、すぐに来れない人、私だって2時間以上かかるんだから、それを行ってるのはね、娘のことも可愛いし、孫のことも可愛いと思ってるから、できれば手伝ってあげたいっていう気持ちは持ってるけど、でも、いつもあなたの助けになれるわけではないよっていうことを言ったんですけど。そのときに、母親の代わりには絶対になれないからと。手助けはできるけど、代わりになることはできないと。だから、あなた自身頑張らないとだめなのよって。パパが出張なのはわかるし、すごくよくやるパパだから、困るのはわかるけどって。でもそれはなんとかするしかないって、ベビーシッターとかね、いろんな制度があると思うから、そういうの頼るとか、そういうのちょっと調べてみたら？ みたいな。冷たいようだけど、できるときはやってあげるからっていうことを、…娘は、すごくショックだったみたいで…。（Eさん/60歳・常勤）

Fさんは仕事を終えて、孫の通う保育園、娘宅の距離が近く、保育園の迎えが可能であり、仕事と援助が両立できるような生活圏であると述べており、そのような環境にあるからこそ、無理なく子育て支援に自己を投入している様子が語られている。Fさんの娘は、祖父母が側面から子育て・子育て支援ができるように、保育園を選び、住まいを決めた可能性もある。仕事をもつ祖父母の援助を受けるためには、共通する生活圏であることが必要なのかもしれない。

しかしながら、Eさんの場合は、自分の繁忙期と娘の援助の要請がぶつかってしまい、休むわけにはいかない自分の状況と、娘や孫を大切に思う気持ちを娘に伝えつつ、仕事を抱えながら子育てをしてきた人生の先輩として、娘に心構えを伝え、娘へのエールを送っている。Eさんは、自分の頃にはなかった子育て支援制度の利用を娘に勧めている。Eさんの仕事と子育て支援との両立には、Kotre (1984) の定義、「ジェネラティビティとは自己形成に関わる概念で、自己の延長である人生や仕事の内容を投入したいという動機」が反映されており、Eさんは人生の先輩として、自分にとっての仕事と子育ての両立を、娘に伝えるエピソードと捉えることができる。

考 察

6人の祖母は孫の世話だけでなく、娘家族の状況に合わせて孫と遊ぶという援助も娘や配偶者の食事・洗濯・掃除などの家事も提供していた。孫との時間について楽しく語りながらも、孫との間で不快感情が生じる際には、娘や息子の子育てだけでなく、自分の子育てへの振り返りや自戒を込めて語るエピソードを捉えることができた。すなわち、自分自身が子育てしていた当時のエピソードを振り返り、その反省を込めて娘への助言を工夫しているという語りや娘から当時を批判されたという語りもあり、一歩引いた立場から孫育てに関わっているからこそ、自分自身の子育てを思い出し、娘や息子に伝えたいという動機づけが生み出されたものと考えられる。

孫や娘・息子など次世代が生涯発達の経路をたどっていくことを願うがゆえ、援助の受け手の求めていることは何か―を敏感に読み取ることにつながっていることが窺えた。具体的には、Dさんが娘、娘の配偶者、孫という家族の現状を捉えた上で、彼らの役に立てるようという動機から、ちょっとした煮物やおかずなどを料理しておき、実際に次世代に歓迎される援助が提供されていることに示されている。

Eriksonらは『老年期 (P94)』で、「子どもに示唆を与え、制約を強いるのが、子どもが小さかった時には効果があったかもしれないが、その時と同じような指導が、成人した子どもとの関係ではしばしば好ましくない結果を生む…助言の提供は、一方通行の実践ではなく、世代間における世話の相互的表現である。助言の世代的なやりとりは、援助の交換とも関係がある。ライフサイクル全般をとおして、援助は年上から下の世代へ、と年少から年長への両方向へ流れる」と述べている。これは、たとえばCさんによる自分の娘の子育てへの批判に読みとることができる。実はCさん自身が当時の子育て方法に対して後悔の気持ちをもっており、自分の若いころを客観的に捉え、娘の子育てと重ねて、Cさんから娘への助言につながったと捉えることができる。本研究の対象となった祖母は、自分の子育てを棚上げするのではなく娘の子育てや孫の子育てを援助するうちに、過去と融和する機会を得たことになる。今後人生の充実につながる可能性

もあることがわかる。

本研究の対象となった祖母たちの仕事との折り合いについて、Eさんの語りには、祖母も自己形成の途上におり、自己の延長である人生や仕事を重視していきたいという動機を持っており、それを娘に伝えようとしていた。すなわち現代に生きる祖父母にとっては、子育て・子育ての援助だけでなく、自身の仕事、興味、自己形成など祖父母自身の人生にも注目して、世代間関係を捉える必要があると考えられる。

岡本（1997）によれば、私たちのアイデンティティは、一個人の内的な心の変容だけでなく、他者との関わりの中で発達、深化していく。Kotre（1984）のジェネラティビティの再定義に基づけば、仕事をもって、かつ孫育てや娘・息子の子育てを援助している現代の祖父母世代は、複雑な人間関係の中で援助の担い手として、自己形成という課題にも直面し、葛藤を感じる可能性もあると考えられる。

日本は他の諸国と比較すると、里帰り出産の割合がかなり高いとされてきたが、産科医が減少しているため、最近では実家近くでの出産の手配が困難になっているという指摘もある。また、女性が長期間の社会経験を経て結婚に至る晩婚化、それに伴う晩産化の傾向がみられることから、自らの親とは異なる自分自身のライフスタイルを確立しており、この違いが実家への長期滞在を難しくすることも考えられる。

海外の乳幼児期の子どもの対象とした縦断研究、アメリカのNational Institute for Child Health and Human Development (NICHD) によるEarly Child Care and Youth Developmentの縦断研究の結果を紹介すると、母親による養育と母親以外の養育を比較した結果、24ヶ月と36ヶ月の子どもの問題行動と母親のうつ傾向との関連は、社会的育児など母親以外の養育者が育児を担うことによってより修正されたとしている（Leeほか、2006）。さらにKaptijnほか（2010）のオランダの縦断研究によると、祖父母からの子育て・子育て援助があることで、その後8～10年の間にさらに子どもの出産につながったという効果も見られている。

このように従来の研究では、親の仕事要因、親以外による祖父母など親族の育児支援や社会的育児を盛り込むことの意義が示されている。Strom & Strom（2011）は、生涯発達心理学の観点から、祖父母世代が孫世代とよりコミュニケーションをとり、良好な関係を築くためには、生涯にわたる教育が必要で、社会の変化に対応できるように異世代同士が相互に学び合うべきであると指摘している。

したがって今後、日本の子育て・子育ての地域援助システムを維持するためには、夫婦の協力だけでなく、祖父母の援助、福祉施設・教育施設などの公的制度がより機能するように、長期のスパンでネットワークの構築に取り組む必要がある。

謝辞

本研究は、一般財団法人 第一生命財団の平成 29 年度研究助成を受けて実施された「子育て・子育ての地域援助システムの研究——ジェネラティブティに関するインタビュー調査から」（研究代表 加藤邦子）の調査のデータのうち一部を用いて研究論文としたものである。記して感謝申し上げたい。

引用文献

- 安藤 究, 2017, 祖父母であること——戦後日本の人口・家族変動のなかで, 名古屋: 名古屋大学出版会.
- Erik H. Erikson, Joan M. Erikson, & Helen Q. Kivnick, 1986, *Vital Involvement in Old Age*, N.Y.: W. W. Norton & Company., 朝長正徳・朝長梨枝子訳, 1990, 老年期: 生き生きとしたかわりあい, 東京: みすず書房.
- 深瀬裕子・岡本祐子, 2010, 中年期から老年期に至る世代継承性の変容, 広島大学大学院教育学科紀要, 第 59 号: 145-152.
- Kaptijn, R., Thomese, F., van Tilburg, T. G., & Liefbroer, A. C., 2010, How Grandparents Matter Support for the Cooperative Breeding Hypothesis in a Contemporary Dutch Population, *Human Nature*, Vol. 21: 393-405.
- 加藤邦子, 2014, 子育て期の親がひろば支援者との関係を築くための要因——栃木県の地域子育て支援施設に置ける調査から——, 保育・教育・福祉研究, Vol. 12: 1-18.
- King, V., Russel, S. T., & Elder, G. H., 1998, Grandparenting in family systems: an ecological perspective, in Maximiliane E. Szinovacs (ed.), 1998, *Handbook of Grandparenthood*, Greenwood Press.
- Kotre, John, 1984, *Outliving the Self*, Baltimore: The Johns Hopkins University Press.
- Li-Ching Lee, Carolyn T. Halpern, Irva Hertz-Picciotto, Sandra L. Martin & Chirayath M. Suchindran, 2006, Child care and social support modify the association between maternal depressive symptoms and early childhood behaviour problems: a US national study, *Journal of Epidemiology and Community Health*, Vol. 60, No. 4: 305-310.
- Minuchin, P., 1985, Families and individual development: Provocations from the field of family therapy. *Child Development*, Vol. 56: 289-302.
- 日本老年学会・老年医学会, 「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ報告書」, 2017, Retrived from September, 30, https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/20170410_01.html.
- 岡本祐子, 1997, 中年からのアイデンティティ発達の心理学——成人期・老年期の心の発達と共に生きることの意味, 京都: ナカニシヤ出版.
- 労働政策研究研修機構, 「子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査」 Retrived January 29, 2013, from <http://www.jil.go.jp/institute/research/2012/095.htm>.
- Strom, R. D. & Strom, P. S., 2011, A Paradigm for Intergenerational learning, in M. London ed., *The Oxford Handbook of Lifelong Learning*, N.Y.: Oxford University Press: 133-146.
- 上野千鶴子, 2009, 『家族の臨界——ケアの分配公正をめぐる』, 牟田和恵編著, 『家族を超える社会学——新たな生の基盤を求めて』, 新曜社. 2-26.

(提出日 2018年9月27日)